

エゾヤチネズミ

頭胴長90～140mmほどの小型のネズミ。尾は35～55mmなので、頭胴長の1／2以下である。背中央には茶褐色の縦に長い帯があり、尾の環状の模様ははっきり見える。耳は小さく、大部分が毛の中にかくれる。

2年から5年の間隔をおいて大発生することが多い。



1. エゾヤチネズミ。美唄，1995/6.

【学名】 *Clethrionomys rufocanus bedfordiae*

【分類】 ネズミ目(Rodentia)，ネズミ科 (Muridae)

【分布】 北海道；同一種はサハリン，ロシア沿海地方，中国東北部，朝鮮半島北部，シベリア，スカンジナビア半島に分布する。

【特徴】

北海道に分布する3種のヤチネズミは互いによく似ているので、外形的な識別は慣れないと難しい。臼歯咬合面のパターンの違いで正確な識別は可能である。

【生態】

冬に樹皮をかじる。一頭が一日にかじる量は平均22～48 cm²とされている。春から秋にかけて出産する。出産回数は1～3回、一回に5～6頭の子を産むことが多い。生息密度が高まると、産仔数が減少したり、繁殖が終了したりして、出生数が抑えられる。平均寿命は1.9カ月と推定されている。

【加害樹種】

針葉樹と広葉樹のほとんどの樹種をかじる。好んでかじる樹種とあまりかじらない嫌いな樹種とがある（表－1）。

表－1 エゾヤチネズミの樹種ごとの好き、きらい（中田，1998）

--	--

好き	カラマツ, スギ, クロマツ, コンコロールモミ, イチョウ, ニセアカシア, オオバボダイ ジュ, ヤナギ類, ポプラ類, トチノキ, オオカメノキ
↑	アカマツ, ヨーロッパアカマツ, クリ, キリ, サトザクラ, ハウチワカエデ, ヤマグワ, ナナカマド, タラノキ
↓	トドマツ, ヨーロッパトウヒ, ストローブマツ, ゴヨウマツ, ハルニレ, ヤチダモ, イタ ヤカエデ, アズキナシ, ナラ類, キハダ, ブナ, ギンドロ
きらい	アカエゾマツ, グイマツ, イチイ, サワグルミ, ホオノキ, シラカンバ, ハンノキ類, イ ヌエンジュ

【被害と防除】

野ネズミに対しては、植え付け場所の下草を刈り払うのが一番効果的である。野ネズミは物陰に隠れて生活するので、植栽木に寄りつかないようにする。下草はできるだけ地面が見通せるくらいまできれいに刈り払う。また植栽木の周囲の刈り払い幅は1.5m以上とし、広く刈るほどよい。植栽地の近くにササやぶなどがある場合は、そこからネズミが出てかじることがあるので、可能ならば刈り払う。造林地の場合は全面積を刈り払う全刈りが最もよい。またネズミ数を減らすため、ワナや墜落缶を使ったり、殺そ剤を配置して駆除するやり方もある。殺そ剤はリン化亜鉛1%粒剤を取扱い説明書に従って使用する。ヘリコプターを使う航空機散布を計画する場合は、各支庁林務課に問い合わせる。

下草を刈り払ったりネズミを駆除した場所では、その周囲に溝を掘ると（深さや幅とも30～40cmで、溝の底に墜落缶を20～30mごとに埋める）、周りからのネズミの移動を妨げて、被害を防止する効果がある。

植栽木をかじらせない方法としては、ネズミ類の好まない樹種（品種）を植えるのが最も効果的である。イヌエンジュやホオノキ、クルミなどはエゾヤチネズミにかじられにくい（表—1）。また植栽木を金網などで被覆したり、忌避剤を塗布（または散布）するやり方もある。金網や排水用の塩化ビニール管で樹木をおおう場合は、最大積雪深より10cmほど高くするのが望ましい。あるいは通常の被害位置を観察して、その高さ（多くは30cm程度）まででよいことも多い。忌避剤はチウラム剤などが利用できる。

野ネズミの生息数は年ごとに変化し、越冬数が多い年に激害が多発する。北海道では毎年、野ネズミの生息数調査を行っているので、調査結果を参考にして対策をたてるとよい。



2. 幹の樹皮食害。



4. 低木の幹先端の食害。

蘭越, カラマツ50年生, 1994/5/11. 美唄, カラマツ, 1998/5.



3. 食害痕.

エゾノバッコヤナギ (上),
カラマツ (下).



5. 根の食害.

旭川, ミズナラ, 1990/5/19.



6. 根の食害.

岩見沢, ミズナラ, 1993/5.

【その他】

樹皮をかじるネズミには, エゾヤチネズミのほかに, ヤチネズミ属のムクゲネズミ *Clethrionomys rex* と, クマネズミ属のドブネズミ *Rattus norvegicus* がある. 前者は生息数が少ないので, 実害としては問題ない. 後者の件数も多くはないが, 家ネズミなので, 居住環境近くで庭木などの被害を起こしている.

【文献】

桑畑 勤(1996) 動物の林業被害ハンドブック(獣類編). 13pp. 全国森林病虫獣防除協会, 東京.

中田圭亮(1998a) ミズナラの獣害と防除方法.(広葉樹育成ガイド—ミズナラ林の造成. 独立地方行政法人 北海道立総合研究機構 林業試験場監修, 191pp, 北海道林業改良普及協会, 札幌). 150-156.

中田圭亮(1998b) 野ネズミの予察調査と防除の手引 (第2版). 71pp. 北海道森林保全協会, 札幌.

中田圭亮 (2000a) 北海道におけるカンバ類とヤチダモの獣害と防除方法 (I). 森林保護, 275:2-4.

中田圭亮 (2000 b) 北海道におけるカンバ類とヤチダモの獣害と防除方法 (II). 森林保護, 276:15-16.

中田圭亮 (2000 c) 野ネズミに強い山つくり—そのあり方と施業改善—. 38pp. 北海道水産林務部森林整備課, 北海道.

農林水産省森林総合研究所鳥獣管理研究室 (編) (1992) 哺乳類による森林被害ウオッチング-加害動物を判定するために.

エゾヤチネズミ ezoyati/

kaisetu.htm

「文章」中田佳亮, 北海道立林業試験場, 2001/12/10.

nezumi1.JPG, higai1.JPG, higai2.JPG, hagata.JPG, negai.JPG, negai2.JPG

「写真1～6」中田佳亮, 北海道立林業試験場, 1990-1998.